

平成 29 年 8 月 1 日 (火曜日)

足立参院議員、秋田の大雨被災地視察

自民党の足立敏之参院議員は7月29～30日、同22日からの大雨で被害を受けた秋田県内の被災地を視察した。秋田県建設業協会と現地情報に詳しい国土交通省

水系を中心に順次巡り、大仙市淀川流域、同強首地区輪中堤、J R奥羽線盛り土

流失箇所、大仙市寺館・大巻地区、同刈和野地区、同間倉地区、横手市大森町、大仙市大曲捷水路、子吉川水系の由利本荘市芋川の現状を見て回った。視察の過程で仙北建設業協会の幹部と意見交換の場も持った。

視察の中で足立氏は、強首地区の輪中堤のように堤防整備がしっかりと行われている箇所では被害が少なかったことを確認。一方で、用地確保などの問題で整備がれきを集積している寺館・大巻地区を視察する足立氏（右から2人目）

「国の支援を強化する必要がある」との考えを示した。29日に現地入りした足立氏は、被害のあった雄物川



堤防整備による被害軽減確認

程で仙北建設業協会の幹部と意見交換の場も持った。

採など日常の維持管理の重要性も指摘した。

視察の中で足立氏は、強首地区の輪中堤のように堤防整備がしっかりと行われている箇所では被害が少なかったことを確認。一方で、用地確保などの問題で整備

に携わった直轄の玉川ダムや、県管理の協和ダムの調節機能が生かされ、ダムが被害軽減に大きな役割を果たしたことも改めて確認。

がれきを集積している寺館・大巻地区を視察する足立氏（右から2人目）

支川で流下能力を超える被害があった箇所では、原形復旧ではなく、再度災害防止に向けて「改良復旧する

必要がある」とした。30日にはさらに上流で建設が進む直轄の成瀬ダムを視察。大雨被害に対応するためにも「建設を促進することが重要だ」と強調した。



仙北建設業協会幹部と意見交換